

# JCA

Japan Communication Association (JCA) Newsletter 日本コミュニケーション学会ニュースレター

# NEWS

## CONTENTS

113 2016.10

1. 巻頭言 会長挨拶	..... 1	7. 支部ニュース	.....16
2. 第46回年次大会報告	..... 3	支部ニュース：北海道支部	.....16
3. 2015年度第3回理事会報告	..... 3	支部ニュース：東北支部	.....16
4. 第46回年次大会総会報告	..... 7	支部ニュース：中部支部	.....17
5. 学術局報告	..... 9	支部ニュース：関西支部	.....17
2016年度学会賞報告	..... 9	支部ニュース：中国・四国支部	.....18
ジャーナル募集	.....10	支部ニュース：九州支部	.....18
第47回年次大会発表論文募集	.....11	8. JCA 2016年度役員一覧	.....19
5. 事務局報告	.....13	8. メールアドレス登録のお知らせ	.....20
6. 広報局便り	.....14	9. 編集後記	.....20

## 巻頭言

### コラボレーション（協働）を考える

会長 五島 幸一（愛知淑徳大学）

今年の夏も猛暑、大雨、また予測不可能な進路をたどった台風など、自然災害に翻弄されました。会員の皆様はお元気で過ごすごですか？

まずは、年次大会を6月11日・12日に福岡市の西南学院大学において「コミュニケーションとパワー」というテーマのもと開催し、成功裏に収めることができました。これも年次大会実行委員の皆様、関係者の皆様のおかげです。ご尽力いただきありが

とうございました。今回の年次大会では、「九州におけるコミュニケーション学のオーラルヒストリー」という地域との関わり合いのパネルが設けられたことは新しい企画でした。また、同時期に開催された International Communication Association から講演者として、Kent Alan Ono 先生をお招きできたことは幸いでした。

さて、多くの会員が所属している高等教育機関において、今、変革が求められています。ご存じのとおり、グローバル化の波です。多くの大学では、グローバル人材育成と銘打って、グローバル化の流れに遅れないように、学部改組、カリキュラム改訂などが行われており、教員はますます忙しくなっています。今、このグローバル化とともに、知識基盤社会への移行が忙しさに拍車をかけています。これまでの産業社会とは異なり、「答えのない問題」に対して最善の解を導き出す能力が重要視され、そのような能力を育成する教育が求められています。自主的に課題を発見し、それを解決していく意欲を持たせることが課題となっています。グローバル化と知識基盤社会への移行が重なり、多様性が増す中で、一定の水準を保ち続ける必要があります。そのような状況下では、個性、創造性が求められると同時に、人々が協力し合うことが望ましく、研究者のネットワークを形成し、様々な分野の専門家との協力体制が不可欠になります。私たちはそのような状況を念頭に置いて教育・研究を行い、そして自ら他研究者との協調を考える必要があります。

この潮流は学会などの研究者団体にも影響を及ぼしています。例えば、科学研究費を獲得するには研究者が共同でチームを形成する必要があります。先日、独立行政法人日本学術振興会から複数の学会の協力体制による学術団体等の代表者を対象に、平成29年度科学研究費助成事業（研究成果公開促進費）の公募に係る個別相談会のお知らせがありました。もはや同じ領域の研究者との連携を超え、これまで研究協力を考えてこなかった研究者とも共同で研究を行うことも視野に入れる必要が出てきました。このような時代の趨勢を考えると、これまで本学会の年次大会において「コミュニケーション学とX」というテーマを掲げてきたことは、大変意義あることであると再確認しました。コミュニケーション学の研究者たちが認識しているように、コミュニケーション学は幅広い領域と関わり合いがあります。様々な領域との接点を確認し、コミュニケーション研究の可能性を考えていくことは、その多様性のある研究領域の全体像を把握することにつながります。



The Ohio State University にて

さて、6月の年次大会にて学会の新しいロゴを披露しました。一年前の2015年の年次大会では新しい英語名称をお知らせしました。この変更の大きな理由として、国内におけるコミュニケーション研究の理解を広め、学会の活性化を促すことを不可欠だと考えたからです。アカデミックの世界、また高等教育に次々と新しい波が押し寄せています。日本コミュニケーション学会は年次大会、支部研究会、ニュースレターなどを通じて、会員の方々にとって研究の一助となるように情報を提供していきますので、今後もさらなるご支援を賜りますよう、お願いいたします。

## 第46回年次大会報告

大会実行委員長 野中 昭彦（中村学園大学）

6月11日・12日に福岡市の西南学院大学において行われました第46回日本コミュニケーション学会年次大会は盛会のうちに終わりました。この成功は皆様のご参加と裏方として支えてくださった理事の先生方のご助力のおかげです。また、西南学院大学からは清宮ゼミ、鳥越ゼミの学生の皆さんが準備から後片付けまで手伝って下さいました。大会開催に携わった全ての皆様にこの場を借りて、心より感謝申し上げます。

今年はInternational Communication Association (ICA)が“Communicating with Power”というテーマで、同じ福岡市のヒルトン福岡で行われたということで、この週の福岡はコミュニケーション学一色となりました。JCA会場から近いということもあり、ヒルトンへ行かれた先生方も多かったようです。本音を言えば、ICAからもJCAに人の流れができるようもう少し工夫ができたのではないかと、大会実行委員長として悔やむところではありました。

ただ、ICAの大会が近郊で行われたことにより、ユタ大学のKent Alan Ono先生をお迎えして学術講演をしていただくことができました。Ono先生にはアメリカにおけるアジア人がどのようにメディアで描写されてきたか、そして今のような変化が起こっているかについて多くのデータとともに貴重なお話をさせていただきました。

今年は例年よりも多くのパネルが行われました。まずは「コミュニケーション研究と社会実践」と銘打ち、研究と社会との接点に関して議論されました。次に、今大会が福岡で行われたことに関連し、JCAの発展に大きく寄与された、九州にゆかりのある先生方をお招きして、日本太平洋コミュニケーション学会として産声を上げたばかりの頃からどういった変遷を経て現在のJCAに至ったかについて話していただきました。

その他、レトリック研究会、コミュニケーション教育研究会のパネルに加え、4つのパネルの発表がありました。どれも活発なディスカッション促進し、我々の知を深める素晴らしい機会となりました。

そして17件の発表はそれぞれが個性に溢れ、コミュニケーション学の奥の深さと多様性、そして可能性を改めて知るところとなりました。ただ、今回は人が入りきれないほど人気の発表がいくつかありました。今後の改善点として生かしたいと思えます。

11日の夜は西南学院大学キャンパスから近いパエージャ・デ・オーロにて懇親会を行いました。美味しい料理とお酒の力を借りて、皆さんの顔が学者から人間へと変化するところを見るのが私には興味深い瞬間です。そして今年も例外にもれず、笑顔で会話も弾み、楽しい時間を過ごすことができました。

来年のJCAは京都での開催です。さて、来年はどんな懇親会になるのか...いや、どんな大会になるのかを楽しみにしながらまた一年を過ごします。またお会いしましょう！

## 2015 年度 第 3 回理事会報告

日 時 : 2015 年 6 月 10 日 (金) 15 時~17 時

会 場 : 西南学院大学コミュニティセンター 2 階・プロジェクトルーム

出席者 : 理事 19 名

### 【会長挨拶】

五島会長から、大会実行委員会と会場校、学術局の大会担当へのお礼の言葉があった。昨年変更した英語名称とともに新しいロゴが紹介された。日本コミュニケーション学会がさらに発展していくために会員諸氏からの支援が望まれること、コミュニケーション学の発展はまだ道半ばであり、そのためにも年次大会、支部活動、また他研究団体との協働を通じて学术交流が活発になるよう期待することなどが述べられた。

### 【報告事項】

#### 1. 第 46 回年次大会関係報告 (野中)

- ・大会準備は滞りなく進んでいる。ICA と連携する。
- ・ICA 年次大会が福岡市内 (ヒルトンホテル) で開かれているので、ICA の会員が JCA の研究発表やセッションにも参加することがあるだろうという報告があった。
- ・年次大会 2 日目の発表が 1 件キャンセルになった。
- ・オンラインによる事前申し込みは 62 名となった。

#### 2. 各局および担当理事報告

##### (1) 事務局

##### ①入退会者および会費納入報告 (清宮)

会員総数 449 名:正会員 426 名、学生会員 21 名、準会員 2 名 (2016 年 5 月時点)

##### ②会計報告 (松島)

- ・2015 年度決算案

収入の部、支出の部について報告があった。年会費の納入者数が増加したことなどが報告された。

- ・2016 年度予算案

収入の部、支出の部について説明があった。ジャーナル発行費の決済などについて説明された。

##### (2) 学術局

##### ①ジャーナル関連 (坂井)

- ・『日本コミュニケーション研究』第 44 巻第 2 号を発行した。
- ・『日本コミュニケーション研究』第 45 巻第 1 号は 11 月 30 日に発行予定である。
- ・第 45 巻第 1 号に 9 本の応募があった (再投稿論文 1 本を含む)。査読の結果、条件付き掲載可 4 本、掲載不可 5 本となった。
- ・第 45 巻第 2 号の投稿締め切りは 7 月 31 日である。

・ジャーナル掲載論文 PDF 入手状況。次のものは入手済みである。

『ヒューマン・コミュニケーション研究』 第34巻 (2006年) - 第41巻 (2013年)

『スピーチ・コミュニケーション教育』 第19巻 (2006年) - 第26巻 (2013年)

『日本コミュニケーション研究』 第42巻 (2014年) - 第43巻1号 (2014年)、第44巻2号 (2015年)

## ②J-Stage への移行について

J-Stage へ移行するための手続きについて進捗状況と今後のスケジュールが報告された。

## ③学会賞関連

論文の部と書籍の部、それぞれ1件について、授賞式の手順を確認した。

## ④年次大会関連

第47回年次大会を京都ノートルダム清心女子大学で開催する予定であることを、会長からアナウンスする。

### (3) 広報局 (高永、小山)

#### ①ニュースレター112号の発行と113号の発行予定について

ニュースレター第112号を発行した。次号は、8月下旬に原稿依頼し、9月初旬に原稿締切の予定である。コラム「コミュニケーション教育」、「書評/教科書等紹介」のご寄稿、寄稿者の推薦をお願いしたい。

#### ②第46回年次大会の広報について

5月中旬に以下の組織に対して行った。

外国語教育メディア学会、映画英語教育学会、異文化間教育学会、国際ビジネスコミュニケーション学会、表象文化論学会、多文化関係学会、SIETAR JAPAN、日本ディベート協会 (JDA)、日本マス・コミュニケーション学会、日本語用論学会

#### ③第46回年次大会の広告・展示ブース出展企業について

年次大会プログラムの広告協力企業は、プログラム掲載の通り。展示企業は1社のみ (2日間出展)。

#### ④Web 関連

- ・会員の皆様に分かりやすく案内し、非会員の方々に幅広く周知できるよう効果的な広報活動を展開した。大会プログラム、チラシを、参加申込サイト掲載 (5月13日)。
- ・JCA ニュースレター最新号 (112号) を掲載 (6月1日)。
- ・学会ロゴマーク使用規程およびロゴマークファイルを掲載 (4月5日)。

## 【支部報告】

詳細については、各支部のニュースレターとホームページをご覧ください。

### 1. 北海道 (長谷川)

- ・年次総会の報告書と支部ニュースを配付。
- ・次期支部長は長谷川支部長が再任された。
- ・予算の執行状況について。
- ・ロゴマークを積極的に使用していく予定である。

### 2. 東北 (長谷川・代読)

- ・ホームページを更新した。
- ・今年度の支部大会は、新潟開催で10月後半か11月中旬を予定している。

## 3. 関東 (青沼)

- ・研究会は開催する予定である。

## 4. 中部 (藤巻)

- ・支部大会を12月17日(土)に愛知淑徳大学で開催する予定である。
- ・ニュースレターを発行した。紙媒体だけでなく、PDFバージョンを作成しホームページ上でも見られるようにしているので、ご覧いただきたい。

## 5. 関西 (守崎)

- ・3月12日(土)支部大会を開催した。2015年度の決算と2016年度の予算を検討した。
- ・11月19日(土)に秋季研究会を開く予定である。詳細が決まり次第、支部のホームページで報告する。

## 6. 中国・四国 (高永)

- ・12月4日(日)に福山市で支部大会を開催する予定である。

## 7. 九州 (池田)

- ・支部紀要に3本の投稿があった。支部紀要の発行は9月末の予定である。
- ・ニューズレター(第27号)を7月末に発行する予定である。
- ・支部役員(運営委員ニューズレター担当)の交代があった。
- ・第23回支部大会を10月22日(土)熊本大学で開催する。支部大会のテーマは「記憶と未来～71年目からの戦後史～」。
- ・特別講演のテーマは「非当事者としての責任」。
- ・熊本震災への義捐金についての報告。

**【審議事項】**

## 1. 第46回年次大会関係

宿泊場所が確保できないという理由で参加をキャンセルしたいという申し出があったが、大会参加費・懇親会費の返金はしないこととした。

## 2. 各局関係

## (1) 事務局

## ・会計年度について

松島会計担当理事から現在の会計年度(5月締め)で作業を行った場合の問題点について報告があった。その上で、会計年度の変更を検討してもらいたい旨提案があった。各局、各支部で問題点などを調査し、次回の理事会で報告することとした。来年3月の理事会で最終的に決定することとした。

## ・支部助成金について

支部助成金を支給するにあたり、支部用のマニュアルを作成することとした。

## (2) 広報局 (高永)

- ・新体制のもとでホームページのリニューアルを検討することとした。

## (3) 学術局

## ①J-Stage への移行について (坂井)

- ・ J-Stage は安全性の高いプラットフォームであるという説明があった。
- ・ J-Stage への移行手続きを進めることが決定された。
- ・ 移行申込書を作成し提出することとした。
- ・ 10月から12月の間に行われる「J-STAGE 利用説明会」に参加することとした。

## ②ジャーナルの電子化について (坂井)

- ・ 紙媒体の取り扱いについて  
電子化したときの学会員のメリットは何か、紙媒体をいつ完全に止めるのかなど検討を続けることとした。
- ・ 電子化作業の委託について  
電子化の作業を業者に委託することとし、業者の選定は学術局が行うこととした。

## 3. 次期体制

小山哲春広報副局長、ルドルフ・ライネルト理事が任期(2期4年)満了に伴い退任、清宮徹事務局長(1期2年の満了)、高永茂広報局長が都合により退任することが承認された。高永茂事務局長、小山哲春広報局長、田島慎朗広報副局長、吉武正樹理事、脇忠幸理事、丸山真純監事が就任することが承認された。

## 4. 次回理事会開催日時・会場

12月開催とし、日時と開催場所についてはあらためて検討することとした。

## 第46回年次大会 総会報告

日 時：2016年6月11日(土) 14時10分～15時00分

### 【全体会議】

1. 総合司会の清宮徹事務局長より、全体会議の開始が宣言された。五島幸一会長、カレン・J・シャフナー西南学院大学学長より、歓迎の挨拶が述べられた。
2. 高井次郎学術局長より、書籍の部(教科書・啓蒙書)・学会賞の池田理知子先生(国際基督教大学)、『日常から考えるコミュニケーション学～メディアを通して学ぶ～』、論文の部・奨励賞の今井達也先生(南山大学)他(IMAI Tatsuya, UMEMURA Tomo, TANIGUCHI Emiko, VANGELISTI Anita L., DAILEY René 著“Worrying Weights on Your Partner’s Heart: Exploring How Rumination about a Romantic Relationship is Associated with Relational Uncertainty Using Dyadic Data”『日本コミュニケーション研究』第44巻2号掲載)が紹介され、五島会長より賞が贈呈された(欠席の今井先生には後日贈呈する旨報告)。
3. 第45回大会実行委員長、森泉哲先生(南山大学)に感謝状が授与された。
4. 野中昭彦実行委員長から挨拶と大会の諸連絡があった。
5. 清宮徹事務局長より、会員向け総会を開催する旨が説明された。

### 【総会】

6. 畠山均先生(長崎純心大学)が議長に推薦され、拍手で承認された。
7. 畠山議長により、会則39条では、「会員総数の5分の1以上の出席」が議決の条件であることが確認された。それに基づき、現時点における会員数435名の内、総会出席者37名、委任状75通の合計112名(会員数435名÷5=87名)で、総会が成立したことが確認された。また、菅家知洋副事務局長の書記就任が、拍手で承認された。
8. 五島幸一会長より、2016年6月1日から発足した新体制、ならびに役員人事案が発表され、拍手で承認された。
9. 五島幸一会長より、2015年度事業報告として、年次大会が南山大学にて開催されたこと、支部活動が活発に行われたこと、英語名称の変更と新ロゴが作成されたことが報告された。2016年度事業計画として、第47回年次大会の京都ノートルダム女子大学での開催が発表され、その次の第48回は北海道での開催が検討されている旨が説明された。また、ジャーナルのJ-Stageへの移行が決定したこと、会計年度開始月の変更(6月から4月へ)が検討されていることが説明された。上記の内容が、拍手で承認された。
10. 松島綾副事務局長より、2015年度決算報告として、以下の点が示された。
  - 1) 収入の部
    - ・年会費は、昨年より30名ほど増加した。備考の数字は会員数ではなく、支払った人数を示す。
    - ・ジャーナル売り上げは前回より増加した。
    - ・年次大会では、南山大学から助成金があった。
  - 2) 支出の部
    - ・ジャーナル発行費は44巻2号の決済が終わっていないため44巻1号のみの計上となっている。
    - ・ニューズレター費の印刷費には、学会のロゴデザイン費が含まれる。
    - ・予備費には、年会費を二重払いしていた会員への返金が含まれる。鳥越千絵監事(西南学院大学)より、厳正な監査の結果、適正な会計処理が行われていることが報告された。上記の内容が、拍手で承認された。



11. 松島綾副事務局長より、2016 年度予算案として、以下の点が示された。

1) 収入の部

- ・年会費は、昨年と同じ金額を計上している。
- ・年次大会では、西南学院大学からの助成金が後日計上される。

2) 支出の部

- ・ジャーナル発行費は、電子化をしたが紙媒体のものをすぐには停止できないため、現状を維持している。
- ・ニュースレター費は、電子化に伴い科目分けをせず、電子版作成費・維持費をまとめて制作費として計上している。
- ・ホームページ関係費は、現状に応じて増額している。
- ・予備費のその他の項目に、ICA アフィリエイト費を計上している。

上記の内容が拍手で承認された。

12. 畠山均議長から議事の終了が宣言された。

13. 司会の清宮徹事務局長より、総会終了が宣言された。

## 学術局報告

### 2016年度学会賞報告

学会賞：書籍の部（教科書・啓蒙書）

『日常から考えるコミュニケーション学～メディアを通して学ぶ～』 ナカニシヤ出版

池田理知子著

多くのコミュニケーションの入門書のなかで、本書は独特で斬新な構成からなっており、まずはこのことが審査員の目を引きました。前半は通常の章立てで、コミュニケーションの基礎についてであるものの、後半はコミュニケーション学の応用的な観点から社会の現実的な諸問題をさまざまな観点から取り上げています。まさに、コミュニケーション学が現代の日本社会の問題に、どのように解決に役立っているのか、どのようにわれわれに貢献しているのかを実感できるような内容となっています。水俣病患者への差別、産廃原発マネジメントの問題など、具体的な社会問題についてわかりやすくお話ししています。一般的な入門書は概念定義や、理論の説明について延々と述べている一方で、本書は読者（特に学部生）の興味・関心を引き寄せる現実の生活に関わる諸問題を題材に、学問としてコミュニケーション学の重要性をアピールしています。審査員一同、本書は「教科書・啓蒙書の部」で、学会賞に値するという結論に至りました。

奨励賞：論文の部

Imai Tatsuya, Umemura Tomo, Taniguchi Emiko, Anita L. Vangelisti, René Dailey 著 “Worrying Weighs on Your Partner’s Heart: Exploring How Rumination about a Romantic Relationship is Associated with Relational Uncertainty Using Dyadic Data” (『日本コミュニケーション研究』第44巻2号掲載)

本論文は、親密関係のコミュニケーションモデルの代表的なモデルの一つである関係不確実性モデルを発展させることを目的として、お互いの関係性に関する反すう思考が、自己やパートナーが認知する関係不確実性にどう影響を及ぼしているのかを、恋愛関係にある2者間のダイアッド・データから検討しています。特に、これまでの対人コミュニケーション研究では、2者間の関係性の影響が強調されつつも、個人要因に帰してしまうという研究が多かったのですが、本論文では、Actor-Partner Interdependence Model を援用して、パートナーのネガティブな反すう思考が関係性認知に影響を及ぼすという、これまでの方法論の限界を超えて新たな成果を生み出している点は大いに評価できます。また既存モデルの先行研究を丁寧に行い、本モデルの理論的発展を目指しているという真摯かつ意欲的な研究姿勢は大いに評価できます。一方で、紙面の限界もあったのだらうと思われませんが、本研究結果の一般化可能性と日常生活面での実践に対する示唆が十分ではなく、本モデルが親密関係のコミュニケーションのありようにどう貢献できるのか今後の課題であるように思います。それをもってしてもなお、本論文は親密関係のコミュニケーション研究に理論・方法論の視点から今後の研究に対して重要な示唆を提供していると考えられます。よって審査員一同、本論文は「論文」の部門で、奨励賞に値するという結論に至りました。

## ジャーナル投稿について

5月に『日本コミュニケーション研究』第44巻第2号が無事発行されました。現在は、第45巻第1号の準備が進められ11月末には発行予定となっています。また、第45巻第2号の締め切りが7月末に終了し、9本の論文が投稿されました。こちらは2017年5月末の発行を目指し、査読作業が現在行われています。

今現在は、第46巻1号(2017年11月末発行予定)への投稿論文を募集中です。締め切りは3か月後の2017年1月末日です。是非皆様の研究結果を論文としてご投稿ください。投稿方法は、ワード等で作成されたファイルを指定メールアドレスに添付して送付してください。送付の際には、(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、以上3つのファイルを添付してください。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要項」を参照してください。

送付の際、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付してください。メールアドレスは以下の通りです。

**To: journal[@をいれる]caj1971.com**

**CC: jisakai[@をいれる]ed.tokyo-fukushi.ac.jp**

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当の坂井(jisakai[@をいれる]ed.tokyo-fukushi.ac.jp)までご連絡下さい。迅速に対応いたします。

以前ジャーナルの投稿について書いたことがあります。本学会では再査読システムが導入されているため、不掲載になった論文も再投稿が可能です。実際今までにこのシステムを使用し再投稿される方も徐々に増え、論文の質向上が認められ掲載に至ったケースも出始めています。再チャレンジには二の足を踏む場合もあるかと思いますが、そのプロセスを通じ学ぶことも多いと思います。ジャーナル投稿は学会の柱の一つであり、ジャーナルを通し皆様の様々な知見は学会員の方へと伝わり日本コミュニケーション研究の裾野は広がっていくと思います。地道なプロセスですが、今後とも新規投稿、再投稿に関わらず、是非とも皆様方の知見の凝縮した研究成果をジャーナルにご投稿ください。時代は変わっても常にその中核を担うのはコミュニケーション活動ではないでしょうか。皆様のジャーナル投稿は、コミュニケーション研究の知恵の結集につながる重要な役割を担っていると考えられます。皆様方のご投稿、心よりお待ちしております。

(副学術局長:ジャーナル担当 坂井二郎)

## 第47回年次大会 発表論文・企画セッション募集

日本コミュニケーション学会は、2017年6月3日(土)・4日(日)に、京都ノートルダム女子大学(京都市)で第47回年次大会の開催を予定しています。本年度のテーマは「コミュニケーションと未来(仮)」です。このテーマに関連した多数の企画を準備すると同時に、会員の皆様からの研究発表を募集いたします。

また研究発表だけでなく、会員の相互の研究関心と教育実践の質的な向上を共有する「企画セッション」を募集します。形式は、パネルディスカッション、統一テーマの論文発表、ワークショップなど、自由な発想のもと、90分間のセッションを使って、学会のみならず社会に有効な企画をぜひお寄せください。

応募にあたりプログラムに掲載される要旨と大会プロシーディングス出版用の要旨の2種類をご提出ください:

- ① プログラム掲載用要旨:           和文 800 字以内  
  英文 300 語以内
- ② プロシーディングス掲載用要旨: 和文 3000 字以内 (脚注を含む)  
  英文 1000 語以内 (脚注を含む)

いずれも、必ずA4版2枚にすべてを収めてください。なお、パネルなどの企画セッションに応募する場合、パネル全体としてそのセッションの概要を800字(プログラム用)と3000字(プロシーディングス用)の要旨に収めてください。詳しくは、JCA ホームページのプロシーディングス投稿規定を参照ください。

応募の際は、メールの題目/subjectに「JCA submission: 氏名」と必ず明記し、担当理事の森泉哲宛(moriizum@[をいれる]nanzan-u.ac.jp)まで電子メールでお送りください。

応募締め切りは2017年2月20日(月)となりますので、期日には十分にご留意ください。

大会の個人研究発表では、第一筆者(及び発表をおこなう当事者)がJCAの会員であることが規定によって定められています。応募時までにはJCAの会員登録をお済ませいただき、氏名の下に会員番号を表記下さい。また年会費の未納のため、近年、会員資格の失効が発生していますので、あわせてご注意ください。

発表申し込みに関しましては、学会ホームページ(<http://www.caj1971.com/>)でもご覧いただけます。活気に溢れた大会になるよう、積極的に発表申し込みをいただきたく、お願い申し上げます。

## Call for Papers for the 47th JCA Annual Convention

The Japan Communication Association is planning to hold its 47th Annual Convention on Saturday, June 3rd and Sunday, June 4th, 2017, at Kyoto Notre Dame University in Kyoto City. The theme of the Convention will be "Communication and Future (tentative)." JCA will be inviting proposals for individual or panel presentations for competitive research papers dealing with any subjects of communication studies. Additionally, we would like to particularly invite a unique and quality session that contributes to the JCA members and activates our membership activities. The format of this theme session may vary depending on the session's objectives, such as a thematically organized paper session, a panel symposium, or a workshop. We appreciate your proposal that facilitates research activities and teaching practices as well as encourages information sharing beneficial for the JCA members.

Those wishing to propose a paper presentation or a panel discussion should send an e-mail with a word file of the abstract as an attachment to Satoshi Moriizumi, Deputy Director of Academic Affairs, at moriizum[ @ ]nanzan-u.ac.jp by Monday, February 20th, 2017

We will publish conference proceedings with abstracts. Two forms of abstracts should be submitted:

(1) For the convention program:

300 words or less in English or 800 characters or less in Japanese

(2) For the proceedings:

Maximum of 1000 words in English (including foot/endnotes) or

3000 characters in Japanese (including foot/endnotes)

The total volume of abstracts must be limited to 2 pages printed on A4- size paper. Refer to the Submission Guidelines for JCA proceedings, and precisely follow the guidelines. Those who propose a panel or a theme session should submit a session overview of 2 pages maximum; abstracts of individual presenters are unnecessary. Also, at your submission, please specifically type "JCA submission:[name]" on the subject of your mail.

The first author of a paper as well as a presenter in the Convention is strictly limited in the JCA members. If these responsible persons don't have the JCA membership, please join the JCA before submission and indicate the membership number on your paper. We also recommend that you clarify your current status of the membership because it is often lost by not paying the annual fee.

Those of you interested in submitting a proposal, please refer to the JCA homepage (<http://www.caj1971.com/>) for the submission requirements. We look forward to seeing you in Kyoto!

## 事務局報告

### 事務局からのご報告とお願い

#### 1. 会費納入のお願い

年会費の振込用紙を7月にお送りしました。未納の方はお早めにお振込みくださいますようお願い申し上げます。

#### 2. 学生会員・準会員登録申請締め切り

大学院生対象の学生会員、学部生対象の準会員としての登録は、7月末日をもって締め切りました。前年度学生会員または準会員であった方で、新たに登録をされなかった方は自動的に一般会員に切り替えますのでご了承ください。なお、すでに今年度の学生会員または準会員の会費を振り込み済みで、登録をされなかった方には差額を請求させていただきます。

#### 3. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には、速やかに学会支援機構までメールまたは葉書でご連絡いただくか、学会ホームページのWebシステム上で変更をお願い致します。パスワードを忘れた場合、生年月日が登録されていれば、ご自身での確認が可能です。パスワードをお忘れになり、かつ、生年月日を登録されていない場合は、生年月日の登録を直接学会支援機構までご依頼ください。なお、年会費の振込用紙での変更届けはできませんので、ご了承ください。

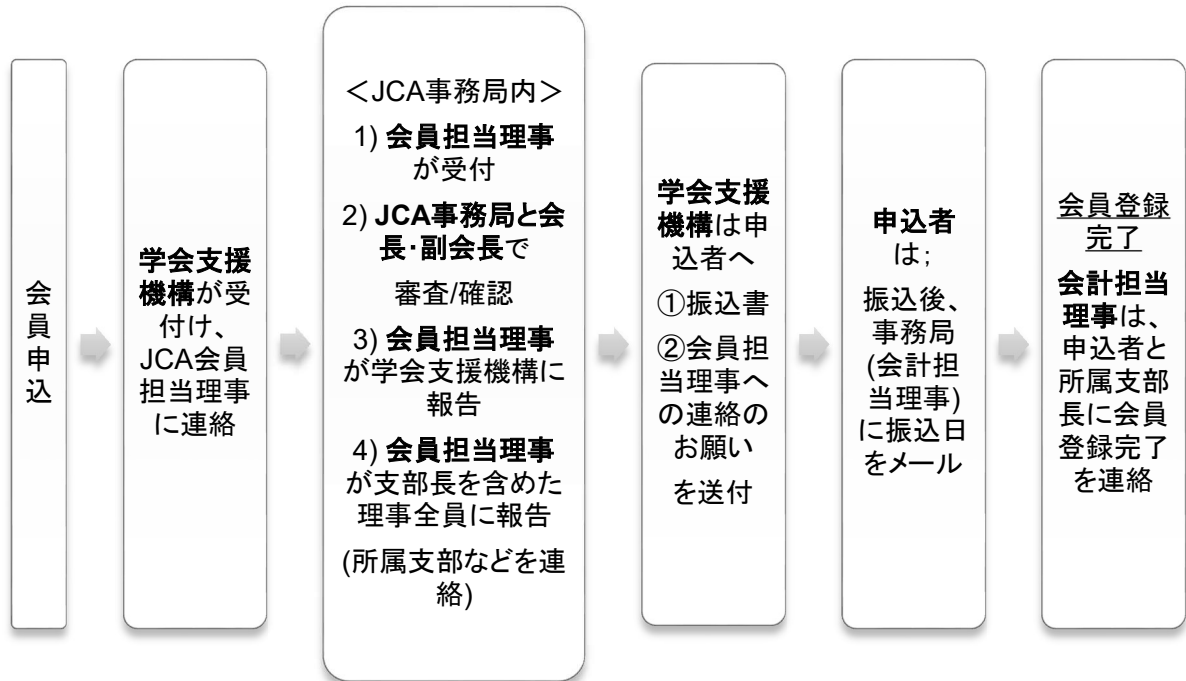
#### 4. ジャーナルバックナンバー、記念図書の購入申込みと閲覧・複写申込み

この度JCAのジャーナルが新しくなりましたが、これまで発行されたジャーナルバックナンバーなど学会発刊物をご購入されたい場合は、学会支援機構にお問い合わせください。国立情報学研究所の論文情報ナビゲータCiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>)に、著者により公開可とされた論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せず、複写をご希望の場合は、学会支援機構までお問い合わせください。（住所は19ページに掲載）

#### 5. 新規会員の手続き

JCAでは、新しい学会会員を随時受け付けています。入会しやすいシステムに移行するため、以下のような流れで、新規会員の手続きを行います。とくに、会費納入について迅速に確認するため、新規の申込者には、会費の振込日を会計担当理事にメールにてお知らせいただくようお願い致します。その上でJCA事務局から申込者と所属支部長に、会員登録の完了を連絡するよういたします。ご不明な点がございましたら、事務局までご連絡ください。

皆様のご協力をお願い申し上げます。



## 広報局便り

### (1)第45回年次大会の広報局活動

第45回年次大会は、広告、展示とも多くの企業からご協力をいただくことができました。厚く御礼申し上げます。

- ① プログラムの広告：ひつじ書房、有斐閣、ナカニシヤ出版、キャンパスサポート西南
- ② 書籍・教育機材の展示（全社両日）：極東書店

広報局では、次年度の大会にむけて、引き続き努力を続けます。皆様も、ご紹介いただける企業がございましたら、ぜひ広報局にご推薦・ご連絡をください。

### (2)各支部の年次大会等

支部ニュースに詳しい予定が掲載されておりますので、そちらをご一読ください。

### (3) その他お知らせ

- ① 学術局と連携して、HP掲載コンテンツの拡充ならびにレイアウトの見直しを図っていくことを計画しています。
- ② 広報局では他学会の情報や教員公募情報なども積極的にアップしていくことにしております。現在も、いくつかの研究学会の年次大会案内や教員公募などの情報をアップしています。ぜひ、ご活用ください。
- ③ 皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報下さい。ホームページにアップしたいと思います。
- ④ ホームページ (<http://www.caj1971.com>) は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸甚です。

(広報局長 小山 哲春)

## JCA ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。以下の要領で奮ってご寄稿ください。

### ① 著書紹介

会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。和文で 250～500 字程度の原稿を受け付けております。

### ② コラム：コミュニケーション教育

コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。

### ③ 書評 / 教科書（テキスト）紹介

コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評、および、コミュニケーション関連の教科書（テキスト）等の紹介を受け付けております。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。

### ④ NL 表紙の写真

ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会の NL 表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。（写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。）



# 支部ニュース

## 北海道支部

(会計 山田 晃子)



6月2日(木曜日)、藤女子大学(札幌市)にて2016年度の北海道支部年次総会が開催され、無事に議案が原案通りにすべて承認されました。役員改選により、長谷川聡先生(北海道医療大学)が支部長に再任され、副支部長には退任する足利俊彦先生(北海道医療大学)に代わって、伊藤明美先生(藤女子大学)が引き継ぐことになりました。また、事務局長の目時光紀先生及び再任された運営委員のほか、新たに4人の先生方が運営委員として加わりました。

総会後には、小寺正史弁護士によるミニ講演会が開かれ、「法廷のコミュニケーション」についてのお話をしてくださいました。裁判官、弁護士、検察官、また弁護士間でのやり取り、裁判におけるコミュニケーションのスタイルや用語の使い方、さらに裁判の過程についてもお話してくださいました。そして今後、一般の人も特殊な法律関係などの場合だけではなく、かかりつけ医のような弁護士の存在も必要ということに参加者は認識しました。

北海道支部は、今後も支部主催のミニイベントなども開催し、支部活動を活性化していく予定です。

## 東北支部

(支部長 川内 規会)

2016年度「第17回東北支部研究大会」を下記の通り開催いたします。

テーマ：「健康とコミュニケーション」

日時：2016年11月19日(土)

12:30 受付、12:50 開会～17:30 閉会

場所：新潟市 新潟大学駅南キャンパス

「ときめいと」 講義室B

アクセス：新潟駅(南口)直結のPLAKA1の2階。

内容：研究発表およびパネルディスカッションを計画しています。パネルディスカッションでは「健康とコミュニケーション」と題し、金谷光子先生(新潟医療福祉大学)、栗崎由貴子先生(新潟医療福祉大学)をお招きし、東北支部の五十嵐紀子先生(新潟医療福祉大学)も交えて「健康観」について問い直すための話題提供をしていただき、参加者のみなさまと、いろいろな意見の交換ができればと思っております。

参加費：無料

懇親会：18:00より(近隣での予定)

申し込み方法：メールで [kseki@\[をいれる\]n-sciryu.ac.jp](mailto:kseki@[をいれる]n-sciryu.ac.jp) 関久美子(大会実行委員長)まで。研究発表をご希望の方は、氏名・所属・連絡先・発表タイトル・趣旨(200字～300字程度)をお送りください。締め切りは **10月15日(土)** です。

たくさんの方々のご発表・ご参加をお待ちしております。



## 中部支部



(支部長 藤巻 光浩)

支部大会のお知らせをします。基調講演には、社会心理学などでご高名な渡辺直登先生をお迎えします。また、会員の著作の合評会をするのが恒例となってきた中部支部大会ですが、今年度は、オバマ政権が終わりに近づく時期に合わせ、『オバマ政権を総括する』と銘打ったパネルを用意しました。鈴木健先生、花木亨先生の御著書を読み解きつつ、オバマ政権とコミュニケーション学との関連を議論したいと思います。両先生のご高著(鈴木 健『政治レトリックとアメリカ文化 オバマに学ぶ説得コミュニケーション』朝日出版社、花木 亨『大統領の演説と現代アメリカ社会』大学教育出版)をお読みになり、ご参集ください。なお、レトリック研究会と、共同開催というかたちにさせていただきます。

日時：12月17日(土)

参加費：無料

場所：愛知淑徳大学星丘キャンパス 13A 教室

大会スケジュール：

12:30 開場

13:00 開会

13:10 基調講演／渡辺直登先生(愛知淑徳大学)

『プログラム評価におけるコミュニケーションの諸相』

14:30 休憩

14:45 『オバマ政権を総括する～鈴木健先生、  
花木亨先生をお迎えして～』

総合コメンテーター：岡部朗一先生

応答者：田島慎朗先生(神田外語大学)、  
是澤克哉先生(広島修道大学)

16:45 休憩

17:00 藤巻光浩『アメリカに渡ったホロコースト』  
(創成社)の合評会

応答者：日高勝之先生(立命館大学)、  
畑山浩昭先生(桜美林大学)

18:30 懇親会(担当：佐藤／風来坊 星ヶ丘店)

\*懇親会への参加のみなさま、12月1日までに佐藤良子先生(愛知大学)に連絡を入れてください。連絡先は、以下の通りです(otasy[@をいれる]vega.aichi-u.ac.jp)。

【渡辺直登先生 略歴】

1975年 名古屋大学教育学部卒業。民間企業勤務を経て、

1985年 イリノイ大学大学院教育学研究科

博士課程修了(Ph.D.)

南山大学経営学部助教授を経て、

1998年慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授。

2016年慶應義塾大学名誉教授。

著作に、『プログラム評価研究の方法』(2008年、新曜社)、  
『教育研修効果測定ハンドブック(翻訳)』(1999年、  
JMAM)、『組織・心理テストの科学』(2015年、白  
桃書房)、『心理学研究法』(2014年、放送大学教育振興  
会)、などがある。



## 関西支部



(支部長 守崎 誠一)

すでにご案内の通り、11月19日に秋季研究会の開催を予定しております。詳細については未定ですが、決定次第支部のホームページ等で周知いたします。

また、第47回の年次大会を京都ノートルダム女子大学で開催する予定となっています。今後、関西支部が一丸となって、より良い大会となるように努力していきたいと考えております。



(支部長 脇 忠幸)

中国四国支部では、第 19 回支部大会を下記の通り開催いたします。

**日時**：平成 28 年 12 月 4 日(日) 13:00 開始予定

**場所**：福山大学 宮路茂記念館 (福山駅北口出ですぐ)

**全体テーマ**：コミュニケーション学と教育

**参加費**：無料

発表者の募集も随時受け付けております。中国四国支部のメンバーに限らず、全国の会員の皆様に申し込んでいただきたいと思っております。

**申し込み締め切り**：平成 28 年 10 月 24 日(月)

**必要事項**：メールに題目と和文または英文の要約を添付し、件名「JCAcs16」で送ってください。

**申し込み先**：reinelt.rudolf.my[@を入れる]ehime-u.ac.jp

今大会の基調講演は、八島智子先生 (関西大学) に「コミュニケーション学と SLA(第二言語習得論)の交差点～Willingness to Communicate～」というテーマでご講演いただきます。

なお、今大会における詳しい案内を含む JCA 中国四国支部ニュースレターを後日発行予定です。また、今回は広島コミュニケーション研究会との共催になる予定です。過去の支部大会の発表資料は、Rudolf Reinelt 先生の HP (<http://web.iec.ehime-u.ac.jp/reinelt/katudouhoukoku.html>) に掲載されています。ぜひご覧ください。



(支部長 池田 理知子)

九州支部では、第 23 回支部大会を 10 月 22 日 (土) に熊本市の熊本大学で開催いたします。大会テーマは「記憶と未来—71 年目からの戦争史」です。第 1 部は 12 本の研究発表、第 2 部は講演およびシンポジウムを行います。講演の内容は、「戦争の記憶：未来に向けて」というテーマで新老人の会熊本支部員の赤木満智子氏の講話「私の空襲体験」、くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表の高谷和生氏の基調講演「熊本の戦争遺産を未来につたえる」です。シンポジウムのテーマは「対話～記憶をつないでいくということ～」で、基調講演者の高谷氏を交えて九州支部の畠山均先生と池田理知子が意見交換を行い、その後フロアとの対話と続きます。詳細はホームページのプログラムをご覧ください。

支部紀要『九州コミュニケーション研究』(第 14 号)は、10 月末の発行に向けて作業を進めているところです。投稿論文と前回大会での基調講演を含めた特別企画が掲載される予定です。

## 日本コミュニケーション学会 2016年度 役員一覧

(2016年6月1日～2017年5月31日)

会長	五島 幸一	愛知淑徳大学
副会長 (総務担当)	青沼 智	津田塾大学
副会長 (学術担当)	守崎 誠一	関西大学
事務局長	高永 茂	広島大学
副事務局長	菅家 知洋	東海大学
副事務局長	松島 綾	熊本学園大学
学術局長	高井 次郎	名古屋大学
副学術局長 (ジャーナル担当)	坂井 二郎	東京福祉大学
副学術局長 (年次大会等担当)	野中 昭彦	中村学園大学
副学術局長 (年次大会等担当)	森泉 哲	南山大学
広報局長	小山 哲春	京都ノートルダム女子大学
副広報局長 (ニュースレター担当)	田島 慎朗	神田外語大学
副広報局長 (ホームページ担当)	今井 達也	南山大学
理事 (企画担当)	吉武 正樹	福岡教育大学
理事 (海外渉外担当)	宮原 哲	西南学院大学
理事 (北海道支部長)	長谷川 聡	北海道医療大学
理事 (東北支部長)	川内 規会	青森県立保健大学
理事 (関東支部長)	小西 卓三	昭和女子大学
理事 (中部支部長)	藤巻 光浩	静岡県立大学
理事 (関西支部長)	守崎 誠一	関西大学
理事 (中国・四国支部長)	脇 忠幸	福山大学
理事 (九州支部長)	池田 理知子	国際基督教大学
監事	鳥越 千絵	西南学院大学
監事	丸山 真純	長崎大学

## 学会支援機構の連絡先

〒112-0012

東京都文京区大塚 5-3-13 小石川アーバン 4F

一般財団法人 学会支援機構

日本コミュニケーション学会担当

TEL: 03-5981-6011 / Fax: 03-5981-6012

E-mail: office[@を入れる]asas.or.jp

# NLの電子版への完全移行のお知らせと メールアドレス登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

日本コミュニケーション学会ニュースレターは永きにわたり紙媒体でお届けして参りましたが、107号より電子版に完全移行いたしました。当面はPDF版をHPに掲載する予定ですが、将来的には学会全体のメーリングリストを構築してのメールマガジンの配信も視野に入れ、さらに検討を続けていきます。つきましては、会員の皆様には、本学会HP（学会支援機構データベース）にてメールアドレスの登録をお願い申し上げます（下記の方法をご覧ください。）今後、NLの配信を含めた学会の広報活動を効率化し、会員の皆様とより情報価の高いコミュニケーションを取れますよう、ご協力をお願いいたします。

- ① 本学会HP (<http://www.caj1971.com>) にアクセス
- ② 左側メニュー「会員各種手続き (Membership)」をクリック
- ③ ページ中頃の「各種変更手続き」の下「1 オンラインでWeb登録情報確認・変更、会費残高照会のページ」をクリック
- ④ 会員番号とパスワードを利用してログインし、メールアドレスを登録（変更）して下さい。

\* ご登録いただきましたメールアドレスは、学会（学生支援機構）が責任を持って管理し、学会からのお知らせの配信（および、これに係るメーリングリストの構築）以外の目的では使用しません。

- 会員番号は、学会からの郵送物の宛名ラベルの中に印字されています（10桁の番号）
- パスワードをお忘れの場合には、上記④の画面で、「パスワードの問い合わせ」をクリックして手続きを行って下さい。

## 編集後記

今年度よりニュースレター担当を小山哲春先生から拝受しました神田外語大学の田島慎朗です。編集の仕事は過去少しだけ行ったことがあるものの、当学会のニュースレター編集は特殊なソフトウェアを駆使した高度なものでした。また、全国でご活躍のコミュニケーション研究者の皆さまとやりとりを行いながらニュースレターという制作物をお送りできることに喜びを感じています。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

（広報局 ニュースレター担当 田島）